

教育・保育施設等における誤嚥事故防止のための食材整理表

令和6年度子ども・子育て支援調査研究事業「教育・保育施設等における食事の誤嚥事故防止対策に関する調査研究」において、使用を避ける食材や調理を工夫する食材について「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」を基に整理しましたので、ご活用ください。なお、本整理表に掲載した食材以外でも、誤嚥事故が発生する可能性があることを念頭に置いて、食事の見守りを行いましょう。

使用を避ける食材

粘着性が高く、飲み込みにくい



もち



白玉団子



乾いたナッツ・豆類



ミニトマト



ぶどう



さくらんぼ



個装チーズ



うずらの卵



アメ類・ラムネ



いか



こんにゃく

球形や大きさから、気道に入りやすく、つまりやすい

弾力性があり、噛み切りにくい

やむを得ず使用する場合の留意点➡

4等分して形や大きさを変える

4等分して形や大きさを変えて、口内に残る皮も取り除く

加熱して形や大きさを変える

「糸こんにゃく」で代用する

調理を工夫する食材

- 「年齢等」はあくまで目安です。こどもの口腔機能(咀嚼・嚥下)の発達状況や、当日の体調等に応じて調理を工夫しましょう。
- 離乳期においては、家庭で喫食経験がない食材の提供は避けましょう。

食 材

年 齢 等

弾力性がある又は繊維が残るため、飲み込みにくいもの



葉野菜

きのこ類

わかめ

ソーセージ

薄切り肉

唾液を吸収して、飲み込みにくいもの



ゆでたまご



ひき肉

食塊の固さや切り方によってつまりやすいもの



りんご



なし

固くて噛み切れない又は噛みちぎりにくいもの



えび



貝類



おにぎりのり

離乳期

<離乳初期>
(5～6か月頃)



歯はまだ生えていない子が多い。

<離乳中期>
(7～8か月頃)



前歯が生え始める。

<離乳後期>
(9～11か月頃)



徐々に前歯が生えそろうていく。

<離乳完了期>
(12～18か月頃)



前歯8本が生えそろう、奥歯が生え始める。

なめらかにすりつぶした状態にする

舌でつぶせる固さにする

歯ぐきでつぶせる固さにする

歯ぐきで噛める固さにする

やわらかくなるまで加熱する

- 生の状態、すりおろしただけの状態では与えない。

具体的な加熱方法は？



離乳期に提供することは避ける

- 「おにぎりのり」は、「きざみのり」で代用する。

1歳6か月～3歳頃

2歳頃



前から4番目の歯まで生えそろう。

3歳～3歳6か月頃



乳歯(20本)が生えそろう。

- 大人よりはやわらかめの固さ
- 大きさは1cm程度から、口腔機能の発達状況に応じて段階的に調整していく

個別食材のPOINT

- ソーセージ：縦半分に切る(太さや長さも調整する)
- ひき肉：とろみをつける

●近年の誤嚥に関する重大事故は、離乳期のこどもが「りんご」、「パン」を食べた時に多く発生していますので、食材の調理や提供方法等に十分注意してください。

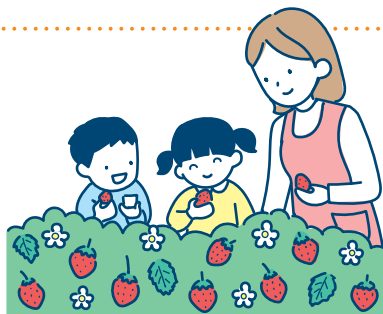
行事やイベント食の注意点

各行事やイベントは、こどもたちの毎日を楽しむことはもちろんのこと、季節の移り変わりや伝統文化に慣れ親しむことなどの狙いがあり、こどもたちの生活を豊かにし、多くの学びや成長の機会となります。

一方で、そうした行事やイベントで提供される食材による事故も少なからず発生しています。行事やイベントを安全に実施するために、以下の例を参考に提供する食材の見直しや実施内容などを検討しましょう。

例1 園庭での栽培活動や農業体験等

- 誤嚥事故防止の観点から「教育・保育施設等における誤嚥事故防止のための食材整理表」において「**使用を避ける**」とされている食材は、栽培活動や果物狩りにおいても注意が必要です。
- 農業体験等で収穫した季節の果物や野菜等も、こどもに与える際には大きさや固さなどに注意が必要です。
- 収穫時でなくても、こどもが手に取って口に入れてしまうこともあります。栽培場所にも注意が必要です。



例2 節分行事での鬼打ち豆

- 鬼退治の場面では煎り大豆を使わずにボールを使う等の工夫をしている施設もあります。



例3 お月見行事での団子、餅つき行事での餅

- 団子や餅を提供しなくても、飾りや遊びなどを通して風習や文化を学ぶこともできます。



教育・保育施設等における窒息事故発生時の対応フロー

令和6年度子ども・子育て支援調査研究事業「教育・保育施設等における食事時の誤嚥事故防止対策に関する調査研究」において、窒息事故発生時の対応フローについて、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」等を基にとりまとめたので、ご活用ください。

- ・咳をしているのは、少しでも呼吸ができている状態である
- ・咳により食塊を排出できそうであれば様子を見る
- ・本人の咳込みにまかせ、背中を軽くたたいたり、さすったりする
- ・目に見えない食塊を指で取ろうとすると、逆に押し込んでしまうので指を入れない

窒息が疑われる子どもを発見

意識を確認する、大声で人を呼ぶ

- ・119番に連絡し、必要に応じて指示を仰ぐ
「救急です」「窒息です」「意識の有無」
- ・AED依頼
- ・保護者へ連絡

乳児 窒息の兆候

1歳未満の乳児の場合は
チョークサインを示さず、
手を上げて目を見開く動作を
します。



幼児 窒息の兆候

のどをつかむ動作(チョークサイン)
をします。そして、急に顔色が悪く
なり、よだれを垂らして、苦しそう
な顔をして声が出せなくなります。



意識がある

- ・咳込む
- ・苦しうに泣く
- ・しゃべれる(苦しい等)
- ・呼吸が苦しう、呼吸困難
- ・口や目の周りが青白くなっている



异物除去法の動画
出典: JapaneseRedCrossPR

状況を救急隊に伝え、救急隊の指示によつては、异物除去法を試す

异物除去法を行う

1歳未満

はいぶこうだほう
背部叩打法と胸部突き上げ法を繰り返す

はいぶこうだほう
背部叩打法(1歳未満)

片手に子どもをうつぶせに乗せ、手のひらで
下あごを持ち、顔を支えて頭を低くし、背中
の真ん中を平手で連続して5回叩く。



繰り返す

5回叩く

胸部突き上げ法

片手に子どもを仰向けに乗せ、手のひら
で後頭部を持ち、体をしっかり支える。
心肺蘇生と同じように、左右の乳頭を結んだ
線の中央で少し足側を、指2本で5回押す。



5回押す

動画の出典: 東京消防庁公式チャンネル

1歳以上

はいぶこうだほう
背部叩打法と腹部突き上げ法を繰り返す

はいぶこうだほう
背部叩打法(1歳以上)

子どもの後ろから片手(もしくは太もも)
を脇の下に入れ、胸と下あご部分を支えて、
あごをそらせる。片手の付け根で
両側の肩甲骨の間に強く迅速に5回叩く。



5回叩く

繰り返す

腹部突き上げ法

子どもの後ろから脇の下へ両腕を回し、
みぞおちの下あたりで片方の手を握り拳
にして、もう片方の手で包み込み、腹部を
手前上方へ5回圧迫する。(1歳以上のみ)



5回圧迫

異物を除去できたら

- ・意識を確認する
- ・体を横向きにし口の中を確認する
- ・安静にして経過観察をする

救急隊が到着したら指示に従う

腹部突き上げ法を実施した場合、内臓を痛めている可能性があるため、救急隊にその旨を伝える

意識がない

- ・呼吸の確認(10秒以内に呼吸の有無を判断する)
⇒お腹や胸が動いているかを見る、もしくは手で触れて確認する

呼吸あり

安静にし、体を横に向けて
様子を見る(観察を続ける)

呼吸なし

呼吸がなくなったら

心肺蘇生法を行う(布団の上では行わない)

- ・胸骨圧迫を強く速く 30回
- ・人工呼吸(入らなくても2回まで)

繰り返す

口の中の食塊が見えたら、可能な場合は取り除く

AED到着 ガイドランスの指示に従う

- ・心肺蘇生を継続しながら電極パッドをとりつける
- ・電極パッドは衣類の上から貼り付けない
- ・汗等で子どもの体がぬれた状態や薬剤(気管支拡張テープ、
湿布など)等を貼ったままで行わない
- ・呼吸が回復しても電極パッドは貼り付けたまま電源は
切らない

- ・呼吸が回復した場合、安静の体勢をとる
- ・呼吸が回復しない場合、救急隊の到着までガイドランス
の指示に従いながら胸骨圧迫を続ける(心肺蘇生法
を繰り返す)